

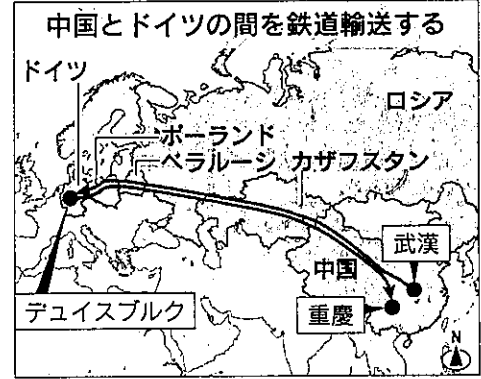
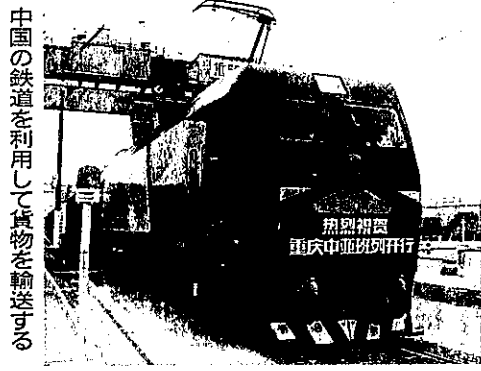
# 欧州—中国間を鉄道輸送

## 日通、費用は航空の1/3

日本通運は少量の貨物から利用できる欧州—中国間の鉄道輸送サービスを近く始める。欧州域内と中国内のトラック輸送も手掛け、企業間物流を一貫して請け負う。輸送費は航空便の最大3分の1に下げることができると見込み。中国にとって欧州連合(EU)は最大の貿易相手手で、航空と海運に続く「第3の輸送手段」として提案する。

### 少量貨物から利用可能

鉄道コンテナに複数の載輸送サービスを始め、荷主の商品を積み込む。中国からロシアなどを經由して、ドイツまで直行する貨物列車を手配する。武漢発・独デュイスブルク着を週2便、独デュイスブルク発・重慶



中国の鉄道を利用して貨物を輸送する

着を週1便提供する。所要日数は航空便の約4倍の18〜21日かかるが、輸送費は最大3分の1に抑えられる。海運と比べると輸送費は2・5倍だが、所要日数は同3分の1に短縮できる。2015年には中国の

世界全体の貿易額のうち対EUは14%を占め、貿易額は06年に比べ2倍に増えた。一方で中国の内陸部では航空機の貨物スペースが不足する状態が続いている。航空便ほど急ぎではないが、船便より速く運びたいという需要は大きいと判断した。日通は欧州と中国に持つトラック輸送網を生かして、発送地からの積み込みから、輸送先の納品まで一貫して請け負う。鉄道区間も含めて全行程で日通が運送責任を負い、

荷物の紛失や損傷などのトラブルに対応する。当面は日系企業を主に想定し、中国と欧州の双方に工場を構える自動車や精密機械のメーカーの部品輸送を見込む。同様のサービスはドイツのDHLなどが手掛けるが、日本企業では初めて。1年間でコンテナ500本分の輸送を目指す。